

会長との対談

～今の最大の課題は～

O:「これまで緑さんを応援しながら、女性議員がもっともって増えてほしいと願ってきた。少子化問題にしても、出産経験のある女性議員が政策立案に加われれば、実効性のある対策で少子化をくいとめることができるんじゃないかな。O:大西多美子会長でも、どうすれば、松前町の女性議員が増えると思う？」



F:「まず、町内のいろんな女性たち、例えば子育て中の女性たち、お仕事頑張っている女性、介護や子どもの教育面で悩みを抱えている女性たちなどが、それぞれ意見交換の場を持つことができればいいと思います。その「場」は、集まって対面でなくても、オンラインやSNSなどいろんなツールも活用できますよね」

O:「そこで出てきた意見をどうまとめ、政治にもまた女性議員を増やすことにもつなげていけるかな？」

F:「住民の要望として、代表である町議が、行政に発信（議会に提案）することができます。そして、町議に託した自分たちの声が、本当に活かされているのか、しっかり見届けてほしい。そうすることで、政治への関心も強くなり、選挙にも行き、更には自分たちの代表として議員を送り出すこともできますよね」

O:「とはいえ個々の力だけでは限界があるので、より確実な声が出せる人を育て、支える会が必要だね。町内でいくつもそういう会を作りたいね」

F:「その会をつくるために、私も最大限協力し、橋渡しをしたいと思っています」



F:藤岡みどり議員

編集後記

早くも4年経過。8月には改選を迎えます。みどり議員も、もう一踏ん張りする決意で臨んでいきますので、皆様の暖かいご声援をお願いいたします。

3年間悩まされたコロナも、ようやく行動緩和されました。、皆さんが笑顔で暮らすように。(K・)



メールアドレス

fujioka.midori@gmail.com

☆ブログ・フェイスブックでも活動内容の一部を公開しています。

みどりの一人言

★統一地方選挙を終えて

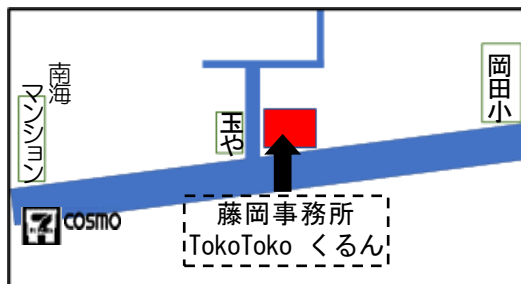
統一地方選の前半で行われた愛媛県議選伊予郡地区は定数2に対し、新人一人出馬により選挙戦になりましたが、やはり投票率は最低を更新。今回の県議選は全体的に無投票地区も多く、女性議員は47人中4人となり、盛り上がりにつけた残念な結果を感じました。

ただ後半戦の関西地区関東圏など、都会の方では女性議員の割合も30～50%と躍進し、私の30歳までの故郷でもある宝塚市では、首長も女性、議員も半分以上が女性という結果に、元気をもらいました。

少子化対策や社会福祉については、今以上に女性の視点が必要で政策提言も、積極的に行っていく場面が増えるはず。私たち女性の実生活に即した経験を踏まえたアイデアや考えが、これらの課題を突破していく力となっていくと期待しています。

今後、政治面だけでなく経済や教育、第1次産業面でも女性の力は欠かせない重要な役割を担うことになるでしょう。当然、地方も変わっていかねばならず、女性の活躍推進の原動力は行政や議会にも着々と変革を求めていくと思います。

私は、自分の責務として、今後もその橋渡しができるよう、努力を積み重ねていく所存です。



(月・水・金) AM9:00～PM5:00
(火・木) AM9:00～正午まで



藤岡みどりの



ワクワク

レポート

第27号

2023.5.15 発行



『ようやく新緑を楽しめる令和5年に～』

★ここ数年、コロナ禍のためみんなで楽しむ行事も諦めていた日々が続いていました。ようやくいつもの桜や新緑を楽しめる生活を取り戻し、私たちもマスクから解放される日も近いのではないのでしょうか。

★新事務所での活動も1年半が過ぎ、地域の方々との交流やサークル活動などもコロナ前の状況に戻りつつあります。

私の議員活動も4期目残り3ヶ月となりました。今まで成しえなかった事を引き続き集大成させる予定が、コロナ禍や新事務所建設など大きな状況変化に伴い思うようにできませんでした。そこで思いも新たに5期目の挑戦を決意いたしました。

★とはいえ、私も含め後援会の皆さんなど以前から支援してくださる方々の高齢化は否めませんが、幸い元気に活動でき、気力、体力共に充実している今なら少しでも松前町のまちづくりに貢献できると考えています。

★つきましては、残り任期の仕事を勤め上げ、皆様の再度の審判を受ける覚悟でこの夏の決戦に挑むつもりです。変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。



～事務所にも本格的春が到来、コロナトンネル脱出か？！

新事務所での活動開始から1年半が過ぎ、まさにコロナトンネル真っ只中で、様々な制約や不安を抱えながらの毎日でした。

ただその間も地域の方々や支援者の皆様に支えられて、ようやく以前のような活気を取り戻せる本格的なシーズンを迎えることができるようになりました。

これからも『ずっと住みたい松前町』になるよう、みなでお茶しながら笑顔で語り合える拠点であり続けたいと思っています。

～みどりの一般質問より～



9月

Q. 町内小、中学校での平和教育の内容と今後の方向性は

A. 小学校では、地域の第二次世界大戦当時の写真や生活用品を教材に、戦時下の暮らしや当時を生き抜いてきた方々の語りを聴く学習を。6年生では、修学旅行先の広島で原爆資料館や平和記念公園を訪れ被爆体験者の聞き取り学習を行っている。中学校では、日本や世界の戦争の歴史と現状を学び国際社会の平和問題について理解を深めている。今後はSDGSの達成の視点をもって平和で持続可能な社会の形成者の育成に努める。



☹️ ロシアによるウクライナ侵攻など現実には起こっている戦争の脅威と平和の大切さを教育現場でもアピールを

12月

Q. 中学校の部活動の指導について少子化問題と教師の負担軽減問題解決のため、今後どのような改善策を考えているのか

A. 本町の中学校の部活動入部率は80%で、多くの生徒がやりがいをもって活動している。国は「部活動を学校単位から地域単位の取組とする」という方針、すなわち地域移行を打ち出している。そのため令和5年から3年間部活動の段階的な地域移行の期間として推進計画策定のための調整をしている。今後は町の実情に応じた地域における部活動の在り方と具体的な検討を進めていく。

😊 令和5年度の事業として予算化され、検討委員会も発足し着実な歩みが期待される

Q. 生活環境に関わる野外での廃棄物の焼却(野焼き)について

A. 野焼きは原則的に禁止されているが、例外的に認められているものもある。稲藁や麦藁の焼却、害虫駆除のための枯れ草焼却など、農地での野焼きは合法的で必要性もあるものだ。特に農家周辺の住環境の変化に伴い苦情も多いが理解を深めてもらうよう広報し、農家の方々にも周辺への配慮をお願いしていきたい。

☹️ 相互理解を深めて共存できる環境作りのためもっと広報していく必要があるのでは

3月

Q. これからの少子化対策並びに子育て支援の考え方は

A. 町内全校区の放課後児童クラブの整備、松山圏域3市3町の婚活支援事業、松前町子育て世代包括支援センター「はくはく」の開設で妊娠期から子育て期にわたる相談、支援の提供、利用者無料の産後ケアの実施、地域で親子が自由に集える子育てサロンの運営補助、子育てサークル活動の充実、中学校卒業までの医療費無償化、更に町職員(正規、会計年度任用職員)を対象に育児休暇、看護休暇の拡充を行っている。



また県との連携で交付金事業を活用した新たな少子化、子育て支援対策に取り組む予定だ。

☹️ 町独自の子育て支援政策がもっとほしい

Q. ジェンダー平等や多様性についての見解、LGBTQ 当事者の行政窓口への提出書類などの対応は

A. 平成5年の人権尊重の町宣言の後、平成14年には「松前町思いやりとぬくもりのある人権尊重のまちづくり条例」を制定し、ジェンダー平等、LGBTQ など人権尊重のための人権啓発や教育に取り組んでいる。行政窓口への提出書類などへの対応については、自分の性別に違和感を持ち男女のみの選択肢に苦痛を感じる人々の心情に配慮し当事者に寄り添いやむを得ない場合を除き性別記載欄を削除することを検討している。パートナーシップ制度の導入は住民の声がないので導入の予定はない。

☹️ 住民の声の有無より、町としてどう考えるかが重要では

Q. 町のDX推進の全体像とその効果、今後の方針は

A. DXとは、デジタル技術の活用を手段の一つとして、住民のより良い生活を確保するため、行政サービスを向上させ行政システムを作り変えることだ。そのため住民目線で課題を発見する能力が必要だ。このため県の「高度人材シェアリング事業」を活用してデジタル技術の専門家による職員研修や相談サポートを開始している。

新たに総務課にDX推進係を設置し、庁舎内のタブレット導入によるペーパーレス化で大幅な紙の使用料や人件費の削減にもつながり、更にチャットツールの導入により外部、内部問わない情報共有、連携効率化の予定。



☹️ 住民のDXへの理解不足の解消に向け丁寧な広報を

～防災活動 あれこれ～



2023/1/22

エミフル松前にて日本防災士会愛媛支部のメンバーとして、ペットボトルを使ったの実験を通してトイレ問題や液化化現象について買い物に来た人々にアピール。まずは興味をもって防災につないでもらう事から…。

2023/2/4 (コムズフェスティバルにて)

気象士から天気予報の見方、考え方を学び災害時のキキクル予報の捉え方を知る。マイタイムラインの書き方を実践で学び防災意識を高め、更には膝下50cm以下の水中歩行の困難さを知ってもらう試みも。



地域の皆さんと共に…

2023/3/29 (地域の集会所にて)

コロナの収束が少しずつ見えてきて、サロン活動も皆さんの笑い声やお話で盛り上がり、民生委員さんからお雛さんを。会員さんからはシャクナゲの花が。いつもの雰囲気に戻ってきましたよ。



3ヶ月に1回の地域の資源ごみ回収は、新聞・チラシ・段ボールなど、役員さんたちが汗を流してパッカー車に運び込む作業が中心。一緒にワイワイやっています。



集会所の入り口はいつも季節感あふれる演出が…♪♪

(春は桜、夏には七夕、秋にはハロウィン飾り、冬にはイルミネーションが)

